

比類なき功績の原点を探る。

東京奠都

三権分立

司法制度確立

国民皆教育

法典編纂

議会制度

江藤新平復権宣言 1周年記念シンポジウム

開催日 / 2026年 **2月1日**(日) 開場 13:00 開演 13:30 終了 17:00
会場 / 佐賀県立美術館ホール(佐賀市城内1-15-23)

来場者募集 参加無料 定員**250名**

募集期間: 2025年11月20日(木)～2026年1月5日(月) 18時締切

参加申し込み方法

右記の二次元コードをスキャンしてお申し込みください。
お申し込みに関する問い合わせは、090-3308-9866
(佐賀広告センター吉岡)までお電話ください。



※参加希望者多数の場合は、抽選とさせていただきます。1月14日(水)までに
当選、落選をメールもしくは電話でお知らせします。
※小学生以下のお子様は、保護者の同伴が必要です。
※お1人様最大2名まで申し込み可能です。
※当日の会場内の様子は、写真や映像で撮影し、今後の広報事業に使用
する場合があります。また、報道機関等の取材が入る場合がありますので
予めご了承ください。

来場者駐車場: 佐賀県庁南館職員駐車場

※台数に限りがあります。可能な限り公共交通機関をご利用ください。
身障者用駐車場もご用意しています。
駐車場記載の地図は、裏面をご確認ください。



さがらしいやさしさで、みなさまをお迎えします。どなたも安心してご来場ください。
イベント参加にあたり、事前に確認したいこと、配慮が必要な事項があれば、
お気軽にお問い合わせください。



スロープ



身障者用
駐車場



車イス貸出



車イス対応
トイレ



オストメイト



おむつ交換
スペース



授乳室



字幕表示

江藤新平復権宣言1周年記念シンポジウム

～比類なき功績の原点を探る～

明治維新という、日本社会を根底から転換する激動の時代を、
過去の経験や常識にとらわれず大局観と高い「志」をもって駆け抜けた江藤新平。
その比類なき功績と崇高な「志」を未来へと継承することを誓った「江藤新平復権宣言」から
1周年となることを記念し、シンポジウムを開催。江藤家の子孫であるフランス・リール大学ベルランゲ河野紀子教授
による基調講演や各分野の専門家によるクロストーク、佐賀東高等学校演劇部による演劇で
江藤の比類なき功績の原点を探ります。

1. 歴史演劇 (13:35～)

「それでも千代子は、眠らない。」



佐賀東高等学校演劇部

現在19名で活動し、県大会最優秀賞(第1位)を13回受賞。
春・夏あわせて全国大会4度出場の実績を持つ。
県内外の学校や公民館からの依頼も多く、九州地方知事会議、東京都港区との連携事業でも、佐賀の歴史や人々の志、輝きを題材にした作品を上演してきた。
日本を築き上げた人と歴史の過去、そしていまを、未来に生きる高校生の視点から描き出す。

2. 基調講演 (15:00～)

「江藤新平の『国民の安堵』概念から見える
佐賀の土壌と西洋思想の関係性」



基調講演

パネリスト

ベルランゲ河野紀子

フランス リール大学教授
江藤新平の実弟、源作の玄孫。
東京都生まれ。京都大学法学部卒業。フランス社会科学高等研究院 (EHESS) 博士課程修了。博士(歴史学)。
リール大学准教授を経て2015年より現職。日本近現代史と19世紀グローバルヒストリーに関心を持つなか、江藤新平の思想・言動をグローバルな視座から再検討。2008年、故毛利敏彦氏(大阪市立大学名誉教授)を第8回フランス日本研究学会に基調講演者として招聘。故島善高氏(早稲田大学名誉教授)とも研究交流。著作に「フランスから見た明治維新 第一回国際東洋学会議(1873)」『明治史講義 グローバル研究篇』などがある。

3. クロストーク (15:50～)

明治初期、日本の近代化はどのような「志」から始まったのか。
佐賀が生んだ「江藤新平」の数々の偉大な功績の根底にあった「国民の安堵」という理念は、西洋思想とどのように交わり、どのように日本の制度づくりへと結びついたのか。西洋法制史や司法制度、憲法や議会制度など、各分野の専門家が江藤の思想とその功績について、現代の視点からその意義を語り合います。



パネリスト

星原大輔

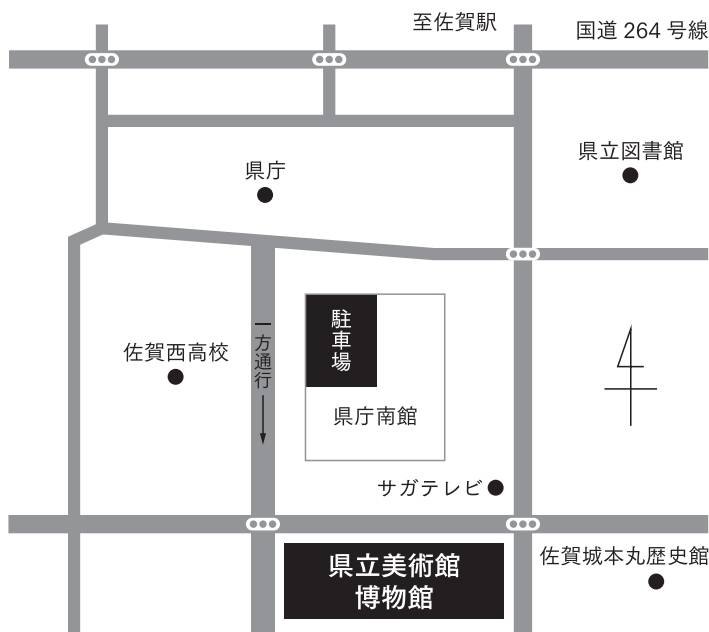
公益財団法人大倉精神文化研究所 研究部長
福岡県生まれ。早稲田大学社会科学部研究科博士後期課程修了。博士(学術)。2000年に故島善高氏(早稲田大学名誉教授)を代表として発足した江藤新平関係文書研究会に参加。長年にわたり江藤新平関係資料の調査と翻刻に携わる。2022年、同研究会の活動の集大成である『佐賀城本丸クラシックス2 江藤新平関係書翰』を刊行。その他、江藤新作(新平の次男)の関係資料の調査研究も行なっている。2016年に(公財)大倉精神文化研究所入所、2022年より現職。



パネリスト

赤坂幸一

九州大学法学研究院教授
京都府生まれ。専門は憲法学。
京都大学大学院法学研究科・博士課程(憲法専攻)、京都大学法学研究科助手、金沢大学法学部助教授、広島大学大学院法務研究科准教授などを経て、2019年より九州大学法学研究院教授。
編著に『統治機構論の基層』(日本評論社)、『憲政史と憲法秩序』(弘文堂)、共著に『憲法学の世界』(日本評論社)、『戦後憲法学』の群像』(弘文堂)など多数。



ファシリテーター

富田紘次

公益財団法人鍋島報效会 理事・事務局長
熊本県生まれ。同志社大学大学院博士課程前期修了。修士(文化史学)。洛南高等学校講師、熊本市立博物館調査員などを経て、2008年より公益財団法人鍋島報效会に勤務。2021年より現職で、旧領地域における鍋島家の明治期以来の事業を承継し土地活用事業及び財務会計を担当。近現代における旧藩主家の役割、また鍋島家伝来資料をもとに地域における藩主家資料の活用について考える。著作に「鍋島家における旧藩重臣家資料の集約」『戦前期渋谷の都市化と生活空間—鍋島家と朝倉家の史料から』(日本経済評論社(近刊予定))など。